

自分を磨く 人を尊重すること、何かをやり抜くこと

現在、陸上部を皮切りに、中体連主催の公式試合がスタートしています。そして、多くのクラブでは、1学期終業式翌日から、乙訓大会が開催されます。

みなさんは、3年間仲間とともに、楽しいときもしんどいときも乗り越えて現在に至っていると思います。みなさんは、これまでどんな思いでスポーツをしてきましたか？大きな大会を機に考えてみたいと思います。

数年前、ある新聞に、高橋正紀（岐阜経済大学サッカー部総監督・専門はスポーツ精神医学）さんが書かれた文章を紹介したいと思います。

「**スポーツマンシップの基本は**」と聞かれたら、どう答えるでしょうか。正々堂々、戦い抜く、という言葉が思い浮かぶかもしれませんが、私は、「楽しむ」「自分が大切」が基本だと考えます。

一番楽しい空間は、非日常の遊びであるゲームです。この空間を構成する自分、仲間、相手、ルール、審判を尊重する、つまり、正々堂々とするのは楽しむためです。何かに挑戦し、やり抜くことで人は成長します。スポーツで戦い抜くのは、大切な自分磨きのためです。

いずれも自分のためと理解した選手は、周りに感謝し、自ら頑張るので、体罰は必要はない。これまで、選手と指導者あわせ5万人以上を対象に、700回近く「スポーツマンのこころ」と題した講演で、伝えてきました。

ドイツ留学中にサッカーの試合で勝ったとき、相手に「ありがとう。君の守備はすごかった。」と感謝されました。自分を磨ける強い相手と出会えたからです。しかし日本では勝つことが一番です。相手を「敵」と表現してしまい、負けることを、恥と考えてきました。

「勝たないと楽しくない」という選手は精神が弱い傾向にあります。「失敗できない」と、積極性を失ってしまう。

日本は選手をスポーツだけに生きるように強います。メディアも国民も、勝つことが最も大事だと思っています。選手にとって、スポーツでの過ちは世界の終わりになる。日大の指導者は、出場機会を奪うという世界の終わりをちらつかせ、選手の正しい判断を奪いました。

私が指導するサッカー部は、目標が四つあります。優先度の高い順に、授業の単位を取る、サッカーを4年間やりきる、アルバイトをする、高め合える恋人をつくる。日常で大切にすることがあり、スポーツは非日常の遊びの空間と認識できたら、たとえ試合に出られなくても世界は終わらない、とわかります。(後略)

高橋さんは、とりわけ日常の大切さを力説され、自分を大切に、そして自分を磨く、そのために、やり抜くこととまわりの人をリスペクトすることを強調されています。これは、単にスポーツに限らず、これから受験勉強という長い取組を取り組むにあたって大切なことなのではないでしょうか？また、スポーツに取り組んでいる人は、乙訓大会まで1ヶ月と少しになったこの時期に改めて自分は何のためにこのスポーツをやっているのかを考えてみるとよいでしょう。

高等学校の先生の話をお聞きしました

先日、高等学校の先生方のお話を聞きました。公立高校の代表として京都府立洛西高等学校、私立高校の代表として京都明德高等学校、通信制高校の代表として京都つくば開成高等学校の先生方から話を聞きました。どの高等学校を選ぶのかをみなさんは選択することになりますが、その際の目安をはっきり持つことが大切です。最も大切なことは、「どんな高校生活を送るか」「高校生活を通して何を頑張りたいのか」「高等学校の卒業後をどう考えるのか」など、人生で一度しかない高校生活あるいは10代後半の時期を自分にとって良いものにしたいですね。世間の評判や受験産業の用語である「偏差値」にこだわる人もいるかもしれませんが、そのことをすべて否定はしませんが、冷静に自分の今後の人生について考えてほしいと思います。

世間の評判や「偏差値」にのみこだわると、他人をもその目安のみで見たり（つまり人を公平に見ることができず上下でしか見れない心の状態になったり）、自分本位になってしまい、人として本来身につけるべき他人への気遣いができなくなったりなど、先生はこれまで残念な姿を少なからず見てきました。「知は力」と何度も強調していますが、本来勉強は人と人とを比べる道具ではありません。あくまでも自分の人生を豊かにしたり、人とつながり連帯するための有効なものはずです。

高等学校からのパンフレットや学校説明会・オープンキャンパスの案内が、少しずつ届いています。先日、高等学校の先生方がおっしゃったように、自分の目で確かめ自分の耳で聞いてほしいと思います。京都明德高校は、「高校側は良い部分しかみなさんに伝えないです。」とおっしゃいました。そうじゃない部分はどこの高校にもあるはずです。それを見つけるのも、学校説明会等に参加する意味があると思います。人生で一度しかない中学校生活と自分のこれからの進路選択を考える時期、こんな時期ほどみなさんにとって有意義な時期はないと思います。疑問に思うこともたくさんあるはずです。進路希望調査を実施しています。お家の方や先生方に率直に疑問をぶつけてみてください。

復習テストで現在の自分の力を確かめる

第1回の復習テストが実施されました。このテストは、三中の先生方が問題を作成しています。概ね、公立中期選抜の問題に照準を合わせて、年3回実施します。これまで言っているように、中学校の成績に直接関わるものではありませんが、自分の実力を確かめる内容になっています。範囲についても予め示しているので、自分がどれだけ理解しているかどうかを確かめてください。

先生方としては、今後3回の復習テストの得点を通して、みなさんが入試当日どれくらいの力を発揮できるのかを予想します。これまでの三中の卒業生の中学校の成績と復習テストのデータが分析の中で、みなさんが希望する高校に進学可能かどうかも判定することができます。

みなさんにとっては、是非復習テストを活用してほしいと思います。三中の卒業生の中には、学校で行われたすべての定期テストや復習テストの問題を保存しておいて、特に3年の11月以降、もう一度それらの問題に取り組んで、自分はどれだけの力がついているのか、またどんな力が不十分なのかを確かめる手段として有効活用していた先輩たちも多かったです。そのような活用の仕方も勉強の一つのコツだと思います。